佐賀県教育センター　　平成 24 年 2 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（中学校　社会科）

平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　中学校社会科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　中学校社会科における学習評価の進め方
4　中学校社会科における学習評価事例
5　中学校社会科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

◆　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆　各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆　新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・<u>表現</u>」**
「技能・<u>表現</u>」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

中学校社会科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

※＿下線部が「**民主的，平和的な**」から「**平和で民主的な**」へと改められました。この教科目標は，従前の目標の趣旨を継承しています。

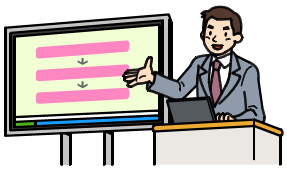
2　評価の観点及びその趣旨

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
社会的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見いだし，社会的事象の意義や特色，相互の関連を多面的・多角的に考察し，社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	社会的事象の意義や特色，相互の関連を理解し，その知識を身に付けている。

評価の観点が，これまでと変わったところは？

○　これまでの「社会的な思考・判断」が「社会的な思考・判断・表現」となりました。これは生徒が「思考・判断」した過程や結果を言語活動等を通じて生徒がどのように「表現」しているかを一体化して評価することを明確に示しています。

○　これまでの「資料活用の技能・表現」が「資料活用の技能」となりました。しかし，資料から情報を収集・選択して，読み取ったりする「技能」と，それらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」とまとめて評価することになりますので，その趣旨に変更はありません。



3　分野別の評価の観点の趣旨

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
地理的分野	地理的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の特色について認識を養おうとする。	地理的事象から課題を見いだし，日本や世界の地域的特色を地域に規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に考察し，公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計，映像など地域に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本や世界の諸地域について，その地域構成や地域的特色，地域の課題などを理解し，その知識を身に付けている。

歴史的分野	歴史的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，広い視野に立って我が国の伝統と文化について考え国民としての自覚をもとうとする。	歴史的事象から課題を見いだし，我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色などを多面的・多角的に考察し，公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	年表や歴史地図，映像など歴史に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解し，その知識を身に付けている。
公民的分野	現代の社会的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。	現代の社会的事象から課題を見いだし，社会的事象の意義や役割，相互の関連などを多面的・多角的に考察し，様々な考え方を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	統計や新聞，映像など現代の社会的事象に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代社会についての見方や考え方の基礎，現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方，社会的事象の意義や役割，相互の関連などを理解し，その知識を身に付けている。

※＿下線部は，全ての分野で共通して従前から変更になっている点で，教育センターによる。

中学校社会科における学習評価の進め方

評価規準は，どうやって設定するの？

各学校において，評価規準を設定するときの基本的な考え方は，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（以下，参考資料と表記）に示されている評価規準の設定例を活用するなどして，学習状況を適切に評価することのできる評価規準を設定することが重要となります。その際，学習指導要領の内容のまとまり（下記の表を参照）を原則的に単元のまとまりとして捉え，単元の評価規準を設定する際の参考とし，効果的・効率的な学習評価の場面を設定することが大切です。

地理的分野の内容のまとまり

大項目	(1)								(2)										
中項目	ア	イ	ウ					エ	ア	イ			ウ						エ
小項目（又は考察の仕方）	／	／	(ｱ)	(ｲ)	(ｳ)	(ｴ)	(ｵ)	(ｶ)	／	(ｱ)	(ｲ)	(ｳ)	(ｴ)	(ｱ)	(ｲ)	(ｳ)	(ｴ)	(ｵ)	(ｶ)	(ｷ)	／

歴史的分野の内容のまとまり

大項目	(1)			(2)			(3)		(4)				(5)						(6)	
中項目	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ

公民的分野の内容のまとまり

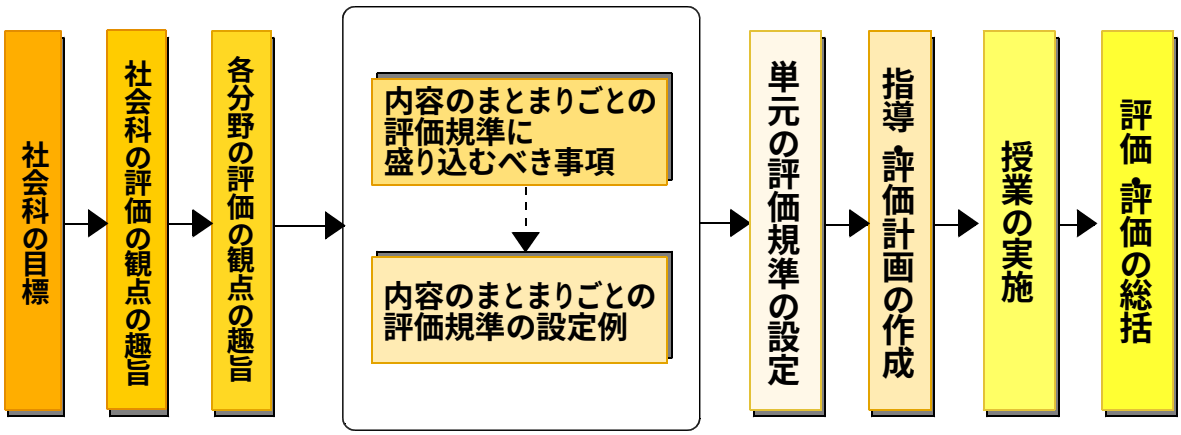
大項目	(1)		(2)		(3)		(4)	
中項目	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ

※太線で囲まれた項目が内容のまとまりを表しています。
また，斜線は該当する項目がないことを表しています。

例えば，「地理的分野(1)ウ」については，小項目(ｱ)～(ｶ)の６つの地誌単元で内容のまとまりを構成するので，これら６つを通して４観点を総合的に評価します。したがって，小項目それぞれの全てに４観点の評価規準を設定し，その全てを評価する必要はなく，小項目ごとに１つ～２つの評価規準を設定し，評価することとなります。（※後掲 事例１を参照）

単元の評価規準の設定する際の留意点

単元の評価規準を設定する際には，「教科目標」「分野ごとの目標」「分野ごとの評価の観点の趣旨」を踏まえ，実際に行われる学習活動とを関連付けながら，参考資料に示された「内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項」（以下，「盛り込むべき事項」と表記）及び「内容のまとまりごとの評価規準の設定例」（以下，「評価規準の設定例」と表記）を参考にして設定することが考えられます。



実際に指導計画を作成する際には，上の図のように，教科の目標や評価の観点の趣旨，各分野の評価の観点の趣旨を基に，単元の内容と実際に行われる学習活動とを関連付けながら，各単元の評価規準，１単位時間ごとの評価規準を設定する必要があります。その際には参考資料に示された「盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」を参考にすることが考えられます。

細かい点でいくらかの違いはありますが、基本的に参考資料においては，評価規準が詳細になりすぎないように，学習指導要領の内容を踏まえ，次のような一定の形式に則って表記してあります。実際に評価規準を設定する際には，次のような表記例を参考にして，設定することが考えられます。

【評価規準に盛り込むべき事項】の表記例

社会的事象への関心･意欲･態度	社会的な思考･判断･表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識･理解
・（A）などに対する関心を高め，意欲的に追究し，捉えよう（考えよう）としている。	・（A）などについて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	・（A）などに関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・（A）を理解し，その知識を身に付けている。

【評価規準の設定例】の表記例

社会的事象への関心･意欲･態度	社会的な思考･判断･表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識･理解
・（A）などに対する関心が高まっている。 ・（A）を意欲的に追究している。 ・（B）に着目して，（A）について考えようとしている。	・（A）を（B）を基に多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	・（A）に関する様々な資料を収集している。 ・収集した資料から（A）について有用な情報を適切に選択している。 ・適切に選択した情報を基に（A）について読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・（A）を理解し，その知識を身に付けている。

1　「盛り込むべき事項」を参考にして評価規準を設定するときの例

観点別学習状況の評価を円滑に実施するために，例えば，地理的分野の「⑴ウ　世界の諸地域」のような，内容のまとまりを「単元」とし，単元を構成する下位項目を便宜上「小単元」と捉えた場合，ある程度の時間をかけて授業を展開していくことが考えられます。こうすることで，事例１で示しているように，「小単元」ごとに１～２観点の評価規準を設定し，評価の重点化を図ることができます。この場合，下の「⑴ウ(ｱ)　アジア州」の例のように，まず「盛り込むべき事項」を「単元」全体の評価規準として設定し，次に「評価規準の設定例」を「小単元」の評価規準として設定した上で，評価規準をより具体化し，１単位時間ごとの評価規準を設定していくというような，評価規準を設定する過程が考えられます。

【盛り込むべき事項】

社会的な思考･判断･表現
・世界の諸地域の地域的特色を，アジア，ヨーロッパ，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，オセアニアの各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。

⇒

「単元」の評価規準

社会的な思考･判断･表現
・世界の諸地域の地域的特色を，アジア，ヨーロッパ，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，オセアニアの各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。

【評価規準の設定例】

社会的な思考･判断･表現
・アジア州に暮らす人々の生活の様子を，そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に多面的･多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。

⇒

各学校で具体化した「小単元」の評価規準

社会的な思考･判断･表現
・アジア州に暮らす人々の生活の様子を，「人口急増と多様な民族・文化」の主題を基に多面的･多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。

⇒

１単位時間ごとの評価規準

社会的な思考･判断･表現
・身のまわりにあるものや我が国の文化からみたアジアとの関わりを調べ,我が国とアジアの地域の結び付きが強くなっていることを多面的・多角的に考察している。 ・アジア州の地域的特色について考察した過程や結果を，地図を活用してまとめたり，図表にまとめたりして適切に説明している。

2　「評価規準の設定例」を参考にして評価規準を設定するときの例

観点別学習状況の評価を円滑に実施するために，実際の学習指導においては，地理的分野の小項目，歴史的分野，公民的分野の中項目を基に単元を設定し，指導・評価計画を作成していくことが考えられます。この場合，「評価規準の設定例」を参考にして単元の評価規準を設定していくことが考えられます。その際は，下の「⑶イ　民主政治と政治参加～法を守る裁判所～」の例のように，まず「評価規準の設定例」を「単元」全体の評価規準と設定し，単元の内容と実際に行われる学習活動とを関連付けながら「評価規準の設定例」を具体化していくというような，評価規準を設定する過程が考えられます。

【評価規準の設定例】

社会的事象についての知識･理解
・法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ，社会の秩序が維持されていることを理解し，その知識を身に付けている。

⇒

各学校で具体化した「単元」の評価規準

社会的事象についての知識･理解
・法にもとづく公正な裁判によって国民の権利が守られ，社会の秩序が維持されていること，司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることを理解し，その知識を身に付けている。

⇒

１単位時間ごとの評価規準

社会的事象についての知識･理解
①民事裁判と刑事裁判の仕組みやその違い，裁判官，検察官，弁護士の役割の違いについて理解し，その知識を身に付けている。 ②人権を守るための三審制や，司法権の独立と，法による裁判が憲法により保障されていることについて理解し，その知識を身に付けている。

各観点における評価内容と評価を行うにあたっての留意点

【社会的事象への関心・意欲・態度】の評価

この観点は，生徒が学習内容や学習活動に興味・関心をもち，社会的事象に関して，自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかといった学習状況を評価するものです。

単元の学習活動全体を通じて，地理的事象や歴史的事象，持続可能な社会の形成などに対する関心が高まったか，よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を意欲的に探究し，自分の考えをまとめようとしているかどうかなどについて学習の流れに即して評価していきます。その際には，活動の様子の観察，生徒との対話，ノート，ワークシート，学習カード，レポート，ペーパーテスト，質問紙などの様々な評価方法の中から，その場面において適切な方法を選択することが大切です。

【社会的な思考・判断・表現】の評価

この観点は，基礎的・基本的な知識・技能を活用しながら社会的事象の意味や意義について考えたり，判断したりしたことを生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価するものです。

生徒の頭の中で行われる学習活動（＝「思考・表現」）と，頭の中の活動を外部化（外に示す）する学習活動（＝「表現」）とを一体化して評価をしていきます。つまり，生徒が習得した「知識」や「技能」を活用して，

〇社会的事象の意義や特色，相互の関連についてどのように考察できたか。

〇社会的事象について公正に判断できたか。

〇社会的事象について思考し判断した過程や結果，自分の考えをどのように説明・論述できたか。

などについて評価していくことが大切になってきます。その際には，活動の様子の観察や，ワークシート，学習カード，レポート，ペーパーテストなどの記述の内容等で評価することが考えられます。

【資料活用の技能】の評価

この観点は，目的に応じて様々な資料を収集したり，そこから有用な情報を選択したり，収集・選択した資料から読み取った結果を図表などにまとめたりできているかどうかを評価するものです。

基本的に従前の「技能・表現」で評価していた内容を引き継ぐものであるという点に留意する必要があります。生徒に社会的事象の意味や意義について考えさせたり，判断させたりする際には，生徒自身が調べたり考えたりするために必要な技能を指導し，評価していくことが大切です。その際には，活動の様子の観察，生徒との対話，ノート，ワークシート，学習カード，ペーパーテストなどの記述の内容等で評価することが考えられます。

【社会的事象についての知識・理解】

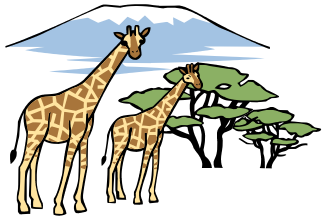
この観点は，従前と同様に社会科の地理的分野，歴史的分野，公民的分野の各分野において習得すべき知識や重要な概念を生徒が理解して身に付けているかどうかを評価するものです。

このときには単元全体の学習のねらいと深く関わる内容を吟味して選び，それが十分に理解されたかどうかを評価することが大切です。その際には，ワークシート，学習カード，レポート，ペーパーテストなどの記述の内容等で評価することが考えられます。

中学校社会科における学習評価事例１（地理的分野）

■　評価の重点化・系統化が分かる事例

学習指導要領の内容のまとまりを単元のまとまりとして捉え，評価場面を設定する地理的分野の例を示しています。１小項目ごとに１～２観点の評価規準を設定し，重点化を図ることが適当となっています。なお，評価規準については参考資料を参考にして設定しました。



１　単元のまとまり　⑴ウ　世界の諸地域

２　単元のまとまりの目標

世界の諸地域に暮らす人々の生活の様子を的確に把握し，様々な地域又は国の地域的特色を捉える適切な主題を追究し，世界の地理的認識を深めるとともに，世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる。

３　単元のまとまりの評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
・世界の諸地域の地域的特色に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，捉えようとしている。	・世界の諸地域の地域的特色を，アジア，ヨーロッパ，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，オセアニアの各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	・世界の諸地域の地域的特色に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・世界の諸地域について，アジア，ヨーロッパ，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，オセアニアの各州に暮らす人々の様子を的確に把握できる主題を基に地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。

※本単元は，内容のまとまりである「⑴ウ　世界の諸地域」を1つの単元として捉え，「盛り込むべき事項」を参考にして，単元のまとまりの評価規準を設定しています。(ｱ)(ｲ)(ｳ)…の各小項目の評価規準を設定する際は，「評価規準の設定例」を参考にして，より具体的な評価規準をそれぞれに設定することが考えられます。

＜「⑴ウ　世界の諸地域」の指導・評価計画（24時間扱い※）＞

項目と単元名	**<主題例>**と課題設定例	評価の観点 関	思	技	知	重点を置く評価活動
⑴ウ(ｱ) アジア州 （６時間扱い）	**<人口急増と多様な民族・文化>** ○なぜアジアでは人口が急増し，民族，文化が多様なのだろうか。	●			○	・人口急増と多様な民族・文化の主題を基に，アジア州の地域的特色の考察に意欲的に取り組んでいる。
⑴ウ(ｲ) ヨーロッパ州 （５時間扱い）	**<ＥＵの発展と地域間格差>** ○ＥＵ加盟国では，政治・経済的な統合によって人々の生活はどのように変わっていったのだろうか。			●	○	・ヨーロッパ州の地域的特色について，提示された資料から適切に読み取ったことをワークシート（以下，ＷＳと表記）に記入している。
⑴ウ(ｳ) アフリカ州 （３時間扱い） **※後掲**	**<モノカルチャー経済下の人々の生活>** ○農業や工業が産業の中心であるアフリカの人々は，どのような暮らしをしているのだろうか。			●	○	・アフリカ州の地域的特色について，提示された資料から適切に読み取ったことをＷＳに記入している。

⑴ウ(ｴ) 北アメリカ州 （４時間扱い）	**<大規模農業と工業の発展>** ○なぜ，アメリカやカナダは農業生産力だけでなく工業生産力も高いのだろうか。		●		○	・北アメリカ州の地域的特色を，巨大な生産と消費の人々の生活様式を基に，多面的・多角的に考察したことをＷＳに記入したり図表にまとめたりしている。
⑴ウ(ｵ) 南アメリカ州 （３時間扱い）	**<森林破壊と環境保全>** ○アマゾン川流域の開発が進んだことによって，南アメリカの環境にはどのような変化が起こったのだろうか。		●		○	・森林資源や水資源などの環境保全の取組が大切な理由について，多面的・多角的に考察したことをＷＳに記入したり図表にまとめたりしている。
⑴ウ(ｶ) オセアニア州 （３時間扱い）	**<アジア諸国との結び付き>** ○なぜオセアニアは，ヨーロッパよりアジアとの結び付きが強くなってきたのだろうか。	●	●		○	・オセアニア州とアジア諸国との結び付きの主題を基に，オセアニア州の地域的特色の考察に意欲的に取り組んでいる。 ・オセアニア州とアジア州との結び付きの主題を基に，多面的・多角的に考察したことをＷＳに記入したり図表にまとめたりしている。

※時数配分等については，平成24年度に佐賀県内の公立中学校で採用予定の3社の教科書（東京書籍･教育出版･帝国書院）を参考に教育センターが作成しました。実際は各学校で工夫して時数配分や観点の設定を行って下さい。
⑴注1⑵「評価の観点」について，「知」は全ての単元に共通しているため，○で示しています。
⑴注2⑵「重点を置く評価活動」について，「知」は全ての単元に共通しているため，省略しています。

4　単元の指導と評価の計画　　⑴ウ(ｳ)アフリカ州

⑴　単元の目標

①　アフリカ州の地域的特色を，そこにくらす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，様々な資料を収集させ，有用な情報を適切に選択させ，地図や図表などにまとめさせる。

②　アフリカ州について，そこにくらす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，地域的特色を理解し，その知識を身に付けさせる。

⑵　単元の評価規準

資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①アフリカ州の地域的特色に関する，地図，統計その他の様々な資料を収集している。 ②収集した資料から，アフリカ州の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。 ③適切に選択した情報を基に，アフリカ州の地域的特色について読み取ったり地図を活用してまとめたり，図表にまとめたりしている。 （アフリカ州の地域的特色に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。）	①アフリカ州について，モノカルチャー経済下の人々の生活という主題を基に，地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。 （アフリカ州について，そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に，地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。）

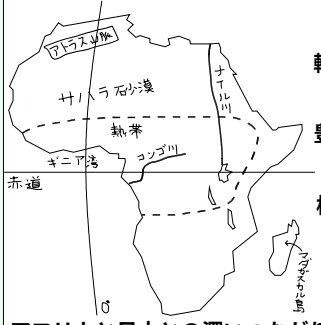
⑴注1⑵ 評価規準は，表中の下の（　）内に示した参考資料中の【「⑴ウ　世界の諸地域」の評価規準の設定例】に基づき，ここでの学習活動に応じて①～③のとおり具現化したものです。
⑴注2⑵ 内容のまとまりを見通して評価計画を作成し，本事例では「資料活用の技能」と「社会的事象についての知識･理解」に重点を置きました。（前掲の**<「⑴ウ　世界の諸地域」の指導･評価計画>**を参照して下さい。）

⑶　授業の流れ（３時間扱い※）

第一次　「モノカルチャー経済下の人々の生活」という主題を基に，アフリカ州の地域的特色を追究する課題を見いだす。（0.5時間）

第二次　アフリカ州の地域的特色を，課題に沿って追究し，地図や図表などを活用してまとめる。（2.5時間）

⑷　単元の指導と評価の展開例

次程	ねらい・学習活動等	評価の観点 関	思	技	知	評価規準等
第一次（0.5時間扱い）	**【ねらい】資料の読み取りを基にアフリカ州を特色付ける地域的特色を見いだし，その特色が見られる背景や問題点，今後の課題などを追究するための課題を設定する。**					
	○地図や提示された資料(資料集など)を見て，アフリカ州の自然，歴史，文化，環境などの視点からアフリカ州について概観する。			●		①アフリカ州の自然，歴史，文化，環境などに関連する地理的事象を見いだしているかをノートの記入内容で確認する。 【「おおむね満足できる状況」(B)と評価されるノートの記入例】 アフリカ州は熱帯，乾燥帯，温帯と多様な自然環境がある。歴史的に見ると，ほとんどの国はかつてヨーロッパの植民地だったが，20世紀半ばに独立した。主な産業は第1次産業の農業や鉱業が中心で，経済的には貧しい国が多いが，新しい国づくりに努力している。
第二次（2.5時間扱い）	**【ねらい】アフリカの脆弱な経済基盤とその理由について，自然や歴史，文化，環境などの視点から，有用な情報を適切に選択し，地図や図表を用いてまとめさせる。**					
	○学習課題を設定する。					
	○地図帳や示された資料，図書，インターネットなどを活用して，アフリカ州の脆弱な経済基盤とその理由に関する様々な資料を収集する。			●		①アフリカ州の地域的特色を，自然環境や歴史的背景と，産業（主要生産品，経済状況等）や旧宗主国・先進国との結び付きなどの視点から，様々な資料を収集している。
	○収集した資料から，アフリカ州の地域的特色について追究するために有用な情報を適切に選択する。			●		②アフリカ州の地域的特色について追究するために有用な情報を適切に選択しているか確認する。
	○アフリカの地域的特色について考察した過程や結果を白地図に記入したり，図表にまとめたりする。			●		③収集し選択した資料や情報を基に地図を活用して，ノートなどにまとめたり，図表にまとめたりしているかを確認する。
	【「おおむね満足できる」状況(B)と評価される具体的な例】 **歴史，産業，自然環境の視点から，アフリカ州の地域的特色に関連した資料を適切に収集・選択し，課題に関連した事象を読み取って適切に表現している。** **【「十分満足できる」状況(A)と評価される具体的な例】** **先の例に加えて，色や文章を使い分かりやすくするための工夫をしている。また，作物の不作や地下資源の枯渇の問題など，さらに自分で調べて書き加えている。** **【「努力を要する」状況(C)と評価される生徒への指導の手立て】** **何を調べたらよいか分からない生徒には，用意された資料の見るべき資料を示す。まとめ方が分からない生徒には記入する例を教師が板書して示す。また，モデルとなる生徒の作品を例として示す。**					【「十分満足できる」状況(A)と評価されるノートの記入例】 **アフリカ州の自然**  **アフリカの歴史** 鉱産資源…金，銅，ダイアモンド，レアメタル 農産物…コーヒー，カカオ，綿花 （プランテーション）（モノカルチャー経済） **輸出用の鉱産資源と農産物** 16～19世紀…ヨーロッパの植民地 奴隷，金，象牙→欧米へ 1960年…アフリカの年（17か国独立） **豊かな自然環境と環境問題** 世界最大のサハラ砂漠 熱帯林，サバンナ，自然保護区 焼き畑農業と砂漠化の進行 **植民地支配の歴史と産業の関わり** 直線的な国境 民族間の対立→長引く内乱，紛争 豊かな鉱産資源をめぐる対立 先進国との経済的な格差 自立に向けた取り組みと日本の援助 **アフリカと日本との深いつながり** 日本はカカオやレアメタルなど，アフリカから多くの産物を輸入するなど，経済的にながりがあります。アフリカが抱える問題を解決するために，日本政府はＯＤＡによ行っています。それ以外にも日本のＮＧＯが技術指導を行ったりして関係を深めて
事後	・ノートを提出させたり，ペーパーテストを行ったりする。 （ノート提出やテスト実施等の時期は，授業や単元の終了後，学期のまとまりごとなど，様々な頻度での実施が考えられる。）				○	①アフリカ州について，モノカルチャー経済下の人々の生活という主題を基に，アフリカ州の地域的特色を理解し，身に付けた知識をノートやペーパーテストで確認する。

※時数配分等については，平成24年度に佐賀県内公立中学校で採用される予定の3社の教科書（教育出版・帝国書院・日本文教出版）を参考に教育センターが作成しました。実際は各学校で工夫して時数配分や観点の設定を行って下さい。

（注1）「評価方法等」の欄の○印の番号は，「**⑵　単元の評価規準**」における各観点別の評価規準の番号と一致しています。

5　指導・評価計画を作成する際の留意点

学習指導要領の内容のまとまりを単元のまとまりとして捉え，評価場面を設定する際，この⑴ウ「世界の諸地域」は24時間と長い時間をかけた授業展開を計画しています。しかし，アジア州，ヨーロッパ州，アフリカ州，北アメリカ州，南アメリカ州，オセアニア州のそれぞれの地域の地域的特色を捉えさせることをねらいとしており，ほぼ同様の授業展開が繰り返されることが予想されます。そこで，各州の地域的特色を捉える学習において，４観点全てを評価することとはせず，それぞれの小単元ごとに評価する観点を絞り，指導・評価計画の中に位置付けました。

「事例１」では，内容のまとまり⑴ウ「世界の諸地域」を１つの単元として捉え，次のような考えを基に，指導・評価計画を位置付けることとしました。

○　「社会的な事象への関心・意欲・態度」については，生徒の学習に対する関心・意欲・態度の変容の状況について個人内評価として，その高まりを評価できると考え，単元の導入時と単元末に評価規準を設定しました。

○　「資料活用の技能」については，この単元を学習するに当たり，教師が提示した資料を読み取り，必要な資料を収集・選択し，関連付けて分析・解釈する方法や，適切に加工して図表などにまとめる技能を身に付けさせるために単元の前半に評価規準を設定しました。

○　「社会的な思考・判断・表現」については，単元の前半で身に付けた「基礎的・基本的な知識・技能」を活用し，社会的事象の意味，意義を解釈したり，事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの，言語活動にかかわる学習を充実させるために単元の後半に評価規準を設定しました。

○　「社会的事象についての知識・理解」については，それぞれの州の地域的特色を捉えさせるものであることから，それぞれに評価規準を設定しました。

指導・評価計画の作成に合わせて，「通知表や指導要録などの記録に残す評価」として，下の表のような記録資料をあらかじめ作成しておくことで，指導の系統化や重点化を把握することが可能となり，最終的に観点ごとの総括や評定を行う際の資料として活用することができます。

なお，ここでは，評価の記録場面を13場面とし，「十分満足できる」状況を「**A**」、「努力を要する」状況（C）の生徒に適切な指導を行った結果の評価を「*B*」と記録しています。なお、当初から「B」と評価した生徒の項目については、記録する際の負担を軽減するために「空欄」としています。

＜⑴ウ「世界の諸地域」の記録資料＞（例）

	関心･意欲･態度			思考・判断・表現				技　能			知識・理解							単元総括
	(ｱ)アジア州	(ｶ)オセアニア州	観点総括	(ｴ)北アメリカ州	(ｵ)南アメリカ州	(ｶ)オセアニア州	観点総括	(ｲ)ヨーロッパ州	(ｳ)アフリカ州	観点総括	(ｱ)アジア州	(ｲ)ヨーロッパ州	(ｳ)アフリカ州	(ｴ)北アメリカ州	(ｵ)南アメリカ州	(ｶ)オセアニア州	観点総括	
生徒Ｆ	**A**				*B*							*B*			*B*			
生徒Ｇ		**A**		**A**		**A**		**A**	**A**		**A**				**A**			

指導・評価計画や，記録資料等の作成にあたっては，各学校で使い勝手がよく，活用しやすいように工夫して下さい。なお，評価の重点化・系統化を行っていても，従前通り「指導に生かす評価」として，生徒の学力の伸びやつまずきを確認し，教師自身の指導上の課題を振り返るためにも，生徒の学習状況についての評価は，１単位時間ごと，次程ごと，単元ごとに適宜行う必要があります。

中学校社会科における学習評価事例２（歴史的分野）

■ 次程ごとにそれぞれ２～３観点程度を評価することとし，この評価を軸にして単元全体の学習評価の総括を行う事例

学習指導要領の中項目を１つの単元として捉え，それぞれの次程ごとに２～３観点の評価場面を設定し，その中の１単位時間ごとについては，１つの評価観点を設定する歴史的分野の例を示しています。

1　単元名　中世の日本

2　単元の目標

⑴　中世の歴史的事象に対する関心を高め，意欲的に追究して，中世の特色を捉えようとさせる。

⑵　中世の特色や歴史的事象について多面的・多角的に考察させ，その過程や結果を適切に表現させる。

⑶　中世に関して収集した様々な資料から有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりさせる。

⑷　中世の特色などを，世界の歴史を背景に理解させ，その知識を身に付けさせる。

3　単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①武家政権の成立とその支配の広まり，東アジア世界との密接な関わり，武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化など，中世の歴史的事象に対する関心を高め，意欲的に追究し，中世の特色を捉えようとする。	①鎌倉幕府の成立，南北朝の争乱と室町幕府，東アジアの国際関係，応仁の乱後の社会的な変動や武家政治の特色について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 ②学習した内容を活用し，その比較や関連付け，総合などを通して，中世の特色を多面的・多角的に考察し，公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	①鎌倉幕府の成立，南北朝の争乱と室町幕府，東アジアの国際関係，応仁の乱後の社会的な変動などに関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ②農業など諸産業の発達，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立，禅宗の文化的な影響などに関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	①武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が次第に全国に広まるとともに，東アジア世界との密接な関わりが見られたことなどを理解し，その知識を身に付けている。 ②武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解し，その知識を身につけている。

4　指導と評価の計画（14時間扱い※）

次程	ねらい・学習活動	評価の観点 関	思	技	知	評価規準等
第一次（1時間扱い）	**【ねらい】古代との対比を通じて，中世の特色に関心をもたせる。**					
	○古代の律令制と比べて中世の武家政権の特徴はどのような点に違いがあるのか，ノートやワークシート（以下，ＷＳと表記）に記述したり，話し合ったりする。（視点の例：衣・食・住，人物，政治の仕組み，社会の様子，産業の様子，文化の様子など）	●				①小学校での学習や様々な資料を基に，律令国家と比べた中世の特色に着目して，中世の特色に対する関心を高めている。（**ノートやＷＳ，話し合いの様子**）

第二次（5時間扱い）	**【ねらい】武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が次第に全国に広まるとともに，武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。**					
	○武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が次第に全国に広まっていったことをＷＳにまとめる。				●	①様々な資料を活用して，武士の台頭と鎌倉幕府の成立によって武家政権の支配が全国に広がっていったことを理解している。（**発言，ＷＳ**）
	○鎌倉幕府の仕組みや主従関係を調べ，武家政権の特徴をＷＳにまとめる。			●		①様々な資料を活用して，鎌倉幕府の仕組みや，幕府の国内支配の様子をまとめたりしている。（**発言，ＷＳ**）
	○承久の乱の前と後の変化を，幕府の支配力に着目して説明する。		●			①様々な資料を活用して，承久の乱後の幕府の支配力が西国に及んだ理由をまとめ，説明している。（**発言，ノートやＷＳ**）
	○元寇の影響と鎌倉幕府の崩壊による社会の混乱と，南北朝の動乱を経て室町幕府の成立の過程についてノートにまとめる。		●			①元寇から室町幕府の成立までの過程を，幕府と御家人の関係や，朝廷との関係に着目して考察し，その過程や結果を自分の言葉で表現している。（**発言，ノート**）
	○武士や民衆の力が伸びてくるとともに，力強く親しみのある文化が誕生してきたことについて，分かったことをノートにまとめる。				●	②様々な資料を活用して，鎌倉時代の文化や宗教の特色と，武士や民衆の力が伸びてきたことを背景としていたことなどを理解している。（**ノート**）
第三次（3時間扱い）	**【ねらい】応仁の乱後，各地に戦乱が広まる中で地方の武士の力が強くなったことを通して，中世の社会の特色を考えさせる。**					
	○室町幕府の特徴を，鎌倉幕府との共通点や相違点に着目して考え，ＷＳにまとめる。			●		①様々な資料を活用して，鎌倉幕府と室町幕府との共通点や相違点について調べまとめている。（**ＷＳ**）
	○新しく生まれた東アジアの国々（明，朝鮮，琉球王国，アイヌの人々など）と日本との関係を調べ，それら諸国との関係が日本国内に及ぼした影響を考え，ノートやＷＳにまとめる。			●		①様々な資料を活用して，地理的な位置を考えながら貿易品や貿易の特徴，交流関係について調べまとめている。（**ノートやＷＳ**）
	○応仁の乱の様子や，京都や各地の変化の様子について調べ，下剋上の風潮の広がりについて説明する。		●			①様々な資料を活用して，応仁の乱後の京都や各地の変化の様子についてまとめ，説明している。（**発言，ノートやＷＳ**）
第四次（3時間扱い）	**【ねらい】武家政治の展開とともに，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させ，その背景に産業の発達や，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立があったことを考察させる。**					
	○絵画資料などから読み取れる産業や技術の進歩，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立について，当時の社会の変化との関係を考えて，ノートにまとめる。			●		②室町時代の産業や文化，社会の様子に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。（**ノート**）
	○室町時代に生まれた文化や生活習慣を，衣・食・住・芸能その他に分類してノートにまとめ，当時の社会の変化との関係を考えて説明する。		●			②様々な資料を活用して，衣食住や芸能などの変化の様子をまとめ，その背景にある諸産業の発展に伴う民衆の成長や禅宗との関係について調べ自分の言葉で表現している。（**発言，ノート**）
第五次（2時間扱い）	**【ねらい】中世の学習を振り返り，様々な視点から時代を大観し表現する活動を通して，中世の特色を捉えようとさせる。**					
	○第四次までに学習した内容を踏まえて，中世の特色を捉える活動に意欲的に取り組み，自分の考えをＷＳにまとめたり，互いに意見交換したりする。	●	●			②第四次までの学習内容を踏まえ，中世を大観してその特色を考え，特色について記述したり意見交換したりしている。（**発言，ＷＳ**） ①中世の特色を捉える活動に意欲的に取り組み，次の中世の学習に対しても関心を高めている。（**発言等**）
事後	・ノートやＷＳを提出させたり，ペーパーテストを行ったりする。 （ノートやＷＳの提出，テスト実施等の時期は，授業や単元の終了後，学期のまとまりごとなど，様々な頻度での実施が考えられる。）				●	①②武家政権の成立や，中世の文化の特色について理解している。（**ノートやＷＳ，ペーパーテスト**） ※「中世の日本」で習得すべき知識や，重要な概念などについて，吟味した内容についてペーパーテストなどで評価を行います。

※時数配分等については，平成24年度に佐賀県内の公立中学校で採用予定の3社の教科書（東京書籍･教育出版･帝国書院）を参考に教育センターが作成しました。実際は各学校で工夫して時数配分や観点の設定を行って下さい。

（注1）「評価方法等」の欄の○印の番号は，「2　**単元の評価規準**」における各観点別の評価規準の番号と一致しています。

（注2）第二次～第四次では，「評価の重点化･系統化」の視点から，「知識･理解」の全ての評価の観点は示していません。

5　観点別評価の総括

評価にあたっては，「A」「B」「C」を数値化して，その平均値を用いたり，３回評価を行った場合の評価の出現状況が，「ＡＡＢ」なら「**A**」，「ＡＢＢ」なら「B」といったように，あらかじめ設定した組み合わせに機械的に当てはめたりして，単元末の観点別評価として総括することなどが考えられます。しかしながら，観点別評価の総括を行う時期を，単元ごとに行うのか，学期ごとに行うのか，学年末に行うのかによって異なる場合もあり得ます。ここでは，単元において「思考・判断・表現」の評価を基軸とした指導・評価計画を作成し，単元末で総括する例を次に示します。

「思考・判断・表現」の観点について，生徒Ｘ，生徒Ｙ，生徒Ｚとも「**A**」の出現状況が２回ずつ見られます。この中で，第五次（13・14時）の「中世の特色」を捉える活動は，第一次から第四次までの学習活動の成果を反映したものであり，その評価は単元全体の学習の評価を代表するものと考えられると判断し，第五次（13・14時）の評価結果を「**A**」とした生徒Ｙについては観点の総括を「**A**」としています。

「単元総括」について，生徒Ｘと生徒Ｙとも４観点それぞれの「観点総括」において，「**A**」の出現状況が２回ずつ見られます。しかし，生徒Ｙの「関心・意欲・態度」の評価が単元前半，後半ともに「**A**」となっています。つまり，生徒Ｙについては，高い「関心・意欲・態度」を保ちながら単元の学習に取り組んだ結果であると判断できることや，「思考・判断・表現」についても、回数を重ねるごとに、その力が積み上げられていっていることに着目し，「単元総括」における評価を「**A**」としています。

このように，後に行った方の評価をより重視する（重み付け）といったことや，あらかじめ評価の基軸と設定していた「思考・判断・表現」の総合評価を重視して「単元総括」を判断するといったことも評価の方法として考えられます。

＜「中世の日本」の観点別評価の総括＞（例）

	関心・意欲・態度			思考・判断・表現						技　能					知識・理解				単元総括
	中世関心	中世特色	観点総括	幕府政治	元寇以降	応仁の乱	中世社会	中世特色	観点総括	鎌倉政治	室町政治	対外関係	中世社会	観点総括	幕府成立	鎌倉文化	中世日本	観点総括	
時	1	13・14		4	5	9	12	13・14		3	7	8	10・11		2	6	事後		
生徒Ｘ	B	**A**	**A**	**A**	B	**A**	B	B	B	**A**	B	B	**A**	**A**	*B*	B	**A**	B	B
生徒Ｙ	**A**	**A**	**A**	B	B	B	**A**	**A**	**A**	B	**A**	B	B	B	**A**	B	B	B	**A**
生徒Ｚ	**A**	B	B	**A**	**A**	B	B	B	B	*B*	B	*B*	B	B	**A**	**A**	B	**A**	B

※「*B*」は「努力を要する」状況（C）の生徒を指導した結果の評価。

中学校社会科における学習評価事例３（公民的分野）

■　**「社会的な思考・判断・表現」の評価の進め方が分かる事例**

1　単元名　日本国憲法と基本的人権の尊重（12時間扱い※）

第一次　日本国憲法と国民主権（３時間扱い）
○日本国憲法の原則について，制定の過程や前文，条文を基に調べ，まとめる。

第二次　基本的人権の尊重（６時間扱い　本時６/６）
○　日本国憲法で認められている基本的人権や社会権などについて調べ，多面的・多角的に考察し，まとめたり発表したりする。

第三次　社会の変化で生まれた「新しい人権」（３時間扱い）
○　社会の変化に伴って生まれた「新しい人権」について調べ，私たちの生活と人権の尊重の関連について多面的・多角的に考察し，まとめたり発表したりする。

※時数配分等については，平成24年度に佐賀県内の公立中学校で採用予定の3社の教科書（帝国書院・東京書籍・日本文教出版）を参考に教育センターが作成しました。実際は各学校で工夫して時数配分や観点の設定を行って下さい。

2　本時の目標

公共の福祉による人権の制限について具体例を基に多面的･多角的に考察させる。

3　本時の評価規準

公共の福祉による自由権の制限に関する課題について，鍵となる概念を用いて多面的・多角的に考察し，自分なりの考えを，自分の言葉で適切に表現している。（社会的な思考・判断・表現）

4　本時の指導と評価のポイント

【ねらい】
「公共の福祉」による人権の制限について具体例を基に多面的･多角的に考察させる。

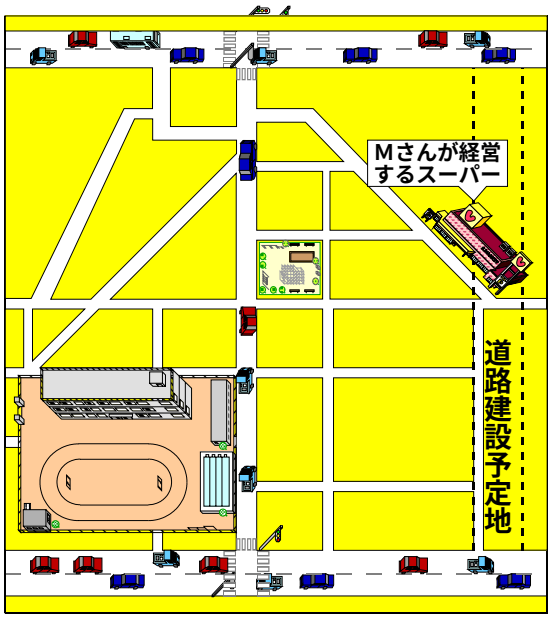
主な学習活動

1　日本国憲法で保障されている様々な人権について，既習事項を確認する。
- 自由権（表現，集会・結社，居住・移転，職業選択）
- 請求権　・社会権　・財産権　・参政権　・請願権

2　具体的な事例を基に，制限される具体的な人権を確かめる。
- 権利の濫用に関する事例
- 公共の福祉に関する事例

3　「公共の福祉」による人権の制限に関する課題について話し合う。
- 道路の建設によって人権が制限される事例

○道路建設のためにMさんが経営するスーパーが移転を求められていることを例に考える。



4　人権と「公共の福祉」との関連について考え，ワークシートにまとめる。

評価の留意点と具体的な評価事例

学習活動１，２で本時の基礎的・基本的となる事項や概念について理解させ，学習活動３で話し合ったことを踏まえて，「公共の福祉」によって自由権が制限されることの意味や意義について，「自由・権利」などの鍵となる概念を用いて，多面的・多角的に考察させ，その過程や結果を適切に表現することができているかということについて，ワークシートの記述内容から評価します。

【「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の具体的な例

○　道路を建設すると，長年，この場所で経営をしていたMさんは立ち退かなければならず，Aさんの居住・移転の自由や財産権が制限されることになるので計画を変更した方がよい。

○　道路建設でMさんはスーパーを移転させなければならず，居住・移転の自由が制限されるが，道路が開通することで住宅街の交通量も減少し，地域の人たちも交通事故の心配をせずに安心して暮らせるようになるので，道路建設は公共の福祉にあたるし，町からMさんに補償もされるので，Mさんはがまんをしてほしい。

【「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の具体的な例

○　先の具体的な例に加えて，さらに環境権による視点や，「対立と合意」「効率と公正」などの見方や考え方を用いて記述している生徒については（A）と評価することが考えられます。

【「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への指導の手立ての例

○　道路工事によって制限されるMさんの権利（居住・移転の自由，財産権）を挙げさせ，次に道路工事によって地域にとってどのようなメリットがあるかを具体的に挙げさせ，それを比較・対立させることから考えさせる。

中学校社会科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ１　これからは１単位時間に１回または２回程度，評価を行えばよいのですか？

Ａ１　学習のねらいを絞ることにより指導の効果が上がることを考えると，１単位時間に全ての指導事項に対して評価の観点と評価規準を設定し評価するのではなく，絞られた本時の指導のねらいに照らし合わせ，そのねらいが達成できたかどうかについて１回から２回の評価を行うことが，評価の信頼性と妥当性を高めることにもなります。

これまでは「指導に生かす評価」と「通知表や指導要録などの記録に残す評価」を混同して，４観点全ての評価規準を設定している場合が多く見られました。そこで，次のように評価のねらいを区別して捉え，行っていくことがポイントとなります。

「指導に生かす評価」では，単元の学習を進めながら，生徒の学習の状況を観察しながら適切な働きかけや指導の手立てを図り，評価を行う際に全ての生徒が少なくとも「おおむね満足（Ｂ）」と判断できるように支援を行っていくことが大切です。

「通知表や指導要録などの記録に残す評価」では，観点別学習状況の評価を効果的・効率的に行うために，単元を構成する小単元ごとに重点を置く観点を設定し，評価の重点化を図ることが有効です。その際には，あらかじめ設定した１単位時間ごとの評価規準に則り，ノートやレポート，ワークシートなど，授業後に教師が確認しながら評価を行えるような方法と，授業中の見取りを適切に組み合わせて評価を行うことが大切です。

Ｑ２　「資料活用の技能・表現」が「資料活用の技能」と変更されましたが，これからは「表現」については評価しなくてよいのですか？

Ａ２　ノートやワークシートなどに記入された内容や，図表や作品などにまとめられた内容を基に，どのような情報を収集し，収集した情報を読み取って選択・整理し，比較しやすくしたり，適切に加工して図表などにまとめたりしているかなどの「表現」の様子について評価していくことも必要です。

中央教育審議会の「児童生徒の学習評価の在り方について」(報告)では，基本的には，従前の「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価することが適当であるとされています。つまり，資料から情報を収集・選択して読み取る「技能」と図表や作品などにまとめる「表現」は，これまで通り「資料活用の技能」で評価することとなります。「技能」については各分野ごとに，次のような内容が「中学校学習指導要領解説社会編（p25～26，p63～64，p95，p127～128）」に示されています。

地理的分野：資料の収集，選択，処理，活用に関する能力。具体的には，地図，統計，新聞，写真，紀行文などを用いて，社会的事象を位置や距離関係を考慮して地図上で捉えることや，新旧の地図を比較し関連付けることで地域の変容の軌跡を捉えることなどを通して，読図力，作図力などの地理的技能を身に付けること。

歴史的分野：文献や絵図，地図，統計など歴史学習に関わる様々な正確の資料や，作業的・体験的な活動によって得られた幅広い資料の中から，必要な資料を選択して有効に活用すること。

公民的分野：情報化が進展する中で社会的事象について考察するときに必要な，関連のある資料を様々な情報手段（コンピュータや情報通信ネットワークなど）を効果的に活用して収集し，かつ考察に必要な情報を合理的な基準で選択し分析すること。

Ｑ３　「社会的な思考・判断・表現」は，どのように評価したらよいですか？

Ａ３　「何を根拠として思考し，判断しているのか」「どのように表現しているのか」などについて評価をしていくことが考えられます。評価の際には，どの程度の表現内容を「おおむね満足できる」状況(Ｂ)と判断するのか，「十分満足できる」状況(Ａ)と判断するのかについて，社会的な事象の意味や意義を捉える上で鍵となる概念を活用して論を展開しているかどうかなどを基にして決めておき，評価することが大切です。そのためには，教師が事前に期待する生徒の発言やワークシートの記述内容を想定して，「おおむね満足できる」状況(Ｂ)を具体的に考えておくことが必要です。

「思考・判断・表現」の観点のうち，「表現」については，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，「思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて生徒がどのように表出しているかを評価すること」としています。つまり，単に文章や図表に整理するという表面的な現象を評価するのではなく，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，社会的事象について思考・判断した結果やその経過を，生徒の説明・論述・討論などの言語活動を中心とした「表現」と一体的に評価することを意味しています。具体的には次のようなことがポイントとなります。

地理的分野：地図や複数の資料から正確に読み取った事実を基に，地図や複数の資料を重ね合わせて多面的・多角的に考察し，意見交換する中で，合理的な解釈になるよう互いに補いながらまとめていくこと。読み取った事実とそれを基に自分が分析し解釈したこととを分けて説明できること。

歴史的分野：歴史的事象間の因果関係やその時代背景，さらにひとまとまりの時代の特色などについて思考・判断した結果やその経過を，文章記述や発言，意見交換などができること。様々な面から歴史的事象の特色を追究し，多面的・多角的に考察した結果を生徒自身の言葉で表現できること。

公民的分野：現代社会の特徴を捉える「自由・権利」「責任・義務」「契約」など鍵となる概念を用いて，具体的，論理的に説明できること。「対立と合意」「効率と公正」などの視点から多面的・多角的に考察し，その過程や結果を生徒自身の言葉で表現できること。

評価の実際については，事例３を参照してください。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校　社会】」などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html